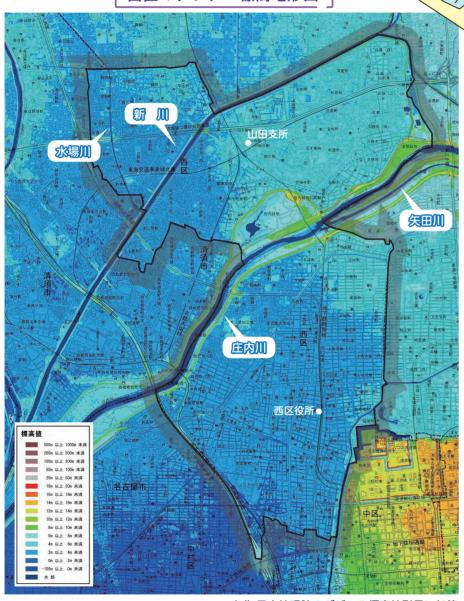


# 西区はどんなまち?

デジタル標高 地形図で見て みましょう!

### 1 地形的な特徴

西区のデジタル標高地形図



出典:国土地理院のデジタル標高地形図に加筆

#### 西区の地理的特徴

西区の大半は、2千年ほど前までに庄内川などが運んできた土砂の積み重なりによって生じた 平野で構成されています。そのため河川の影響を受けやすく歴史的に多くの水害に見舞われてき ました。

特に庄内川による洪水被害は大きく、江戸時代に行われた新川の開削をはじめ、現在に至るまで、様々な治水事業が行われています。

#### 2 どんな災害リスクがある?



|床上浸水| 西区全域 |家屋倒壊| 河川に近い一部地域 |土砂災害| なし

[地震]

**,,,,,,,,,,,,** 

地震の揺れ 液状化可能性 ほぼ全域で大 津波の浸水なし

西区では洪水時に2階以上でも浸水する可能性があります。事前に自宅周辺のリスクや避難先 を各種ハザードマップで確認しておきましょう!

#### 3 東海豪雨による被害



平成12(2000)年9月11日から12日にかけて、本州上に停滞していた前線に、日本の南にあった台風周辺の湿った空気が断続的に流れ込み、東海地方では長い時間にわたって積乱雲が発生・発達しました。

名古屋市では日最大1時間降水量や日降水量が観測史上第1位を更新するなど猛烈な雨が降り、2日間の総降水量は名古屋で567mmと年降水量の3分の1を超えました。

この強烈な豪雨により、西区の北部を流れる一級河川の新川で左岸堤防が破れ、西区だけで住家の全壊が4棟、半壊が84棟、床上浸水が2,450棟、床下浸水が4,787棟という多大な被害が発生しました。



写真提供:庄内川河川事務所

## 4 いざという時に備えて

現在も、東海豪雨やその後の豪雨被害などを 受け、浸水被害の軽減のため、堤防の整備や雨 水貯留施設などの施設整備を進めています。

しかしハード面での整備には限界があります。

西区は全域で風水害のリスクが高いまちです。しかし風水害は、事前に安全な場所に避難することができる災害です。浸水リスクの低い西区外に住む親族や知人などの家への避難も考えてみて下さい。

本紙を参考に家族で災害について話し合い、 避難経路の確認や非常持出品の準備、タイムラ イン(裏面)の作成など、日頃からの備えを進め ましょう。

#### 想定最大規模の洪水浸水想定区域 (名古屋市全体)

